



憧れの職業 No. 1



理事 宮林 佳子

小学生・中学生・高校生の女子憧れの職業No.1に輝くのは、いつの時代も保育士です。調査によって多少異なりますが、テレビドラマやアニメなどに左右されずに必ず上位にランキングされます。しかし最近同じ1位でも、働くということが現実的になる高校生では全体から割だされるパーセンテージが少しずつ下がる傾向にあるようです。少子化ということもあるのですが、実際にある養成校では今年の入学者数が例年より若干減ったそうです。

保育園のことがTV、ネット、新聞等で話題に上がることも多くなりました。待機児問題・騒音問題・保育士不足…アナウンサーが「このような問題を早急に解決しなくてはなりません」と結びますが、取り上げ方によっては「保育園はこのように大変な所ですよ」とネガティブキャンペーンなのかと感じられることすらあります。

確かに憧れの保育士になれたからとっていいことばかりではありません。特に新人時代は、うまくいかないことの方が多いくらいです。年度始めは、新入園児の対応や担任の異動と落ち着かなく、自分が何をしたらいいのか戸惑い、ママを求めて泣く子どもを抱えて自分が泣きたくなくなってしまった、という経験は保育士なら誰でも一度はあるはずですが、でも、初めて子ども達から「〇〇先生」と呼ばれた時、そして「〇〇先生大好き！」と言われた時は、本当に保育士になって良かったと感じます。そして経験を重ねるにつれ様々な場面で良かったと感じることが出来ます。0、1歳児の小さな成長に出会った時、赤ちゃん達の寝顔を見た時、抱っこしたその時にピタッと体を預けてくるその温もりに癒されることもあります。幼児クラスの担任になれば、子ども達の目線だからこそ気づく様々な出来事を一緒になって探求したり、大きな行事を成功させ自分自身も達成感を味わったり、大人だけの世界では感じられない柔らかな心の機微が自分の財産となって蓄積されていきます。

保育園は、子ども達だけが育つのではなく大人も一緒に、人が人の中で育つ場なのです。保育園のネガティブな部分だけではなく、保育園の本質的なこと、保育士の仕事は素敵な仕事だということも、より多くの人に伝えて欲しいと感じます。

勿論、せっかく自分の夢を叶えて保育士になった方々が息切れしてしまわないように、処遇改善に取り組み、保育の質にこだわりながら社会的ステータスをあげていく努力も必要なのだと思います。

私の園では、年長の卒園作品として毎年「おおきくなったら」というテーマで絵を描きます。そこには「保育園の先生になりたい」と描いてくれる子もいます。この子ども達が大人になり夢を叶えた時に「保育士の仕事は、本当に素敵な仕事だ」と胸を張って言えるように、今、なにをすべきか、憧れの職業No.1の維持…意地！を見せたいところです。